

本を選ぶ

- 〈学び〉〈探究〉の扉を開く
- 図書館は読書だけでなく、調べものもできるんです
- ブックトークの楽しさ
- DMかたろぐ

2021年(令和3年)4月20日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

〒335-0004 埼玉県蕨市中央 5-20-1 TEL=048-432-3726

<https://www.las2005.com>

ろん・ぼわん

〈学び〉〈探究〉の扉を開く

山本 慎一

今年(2021年)3月に「岩波ジュニアスタートブック」というシリーズを創刊しました。愛称は「ジュニスタ」。中学生の〈学び〉や〈探究〉の扉を開く入門シリーズです。

いま、「主体的・対話的で深い学び」「探究学習」「正解のない問い」という言葉を教育現場で広く耳にするようになってきました。従来のように、外から与えられる知識をそのまま覚えるだけでなく、生徒が自分で課題を見つけ、自分で考え、自分で解決の道筋を見いだしていく力が求められるようになりました。

「ジュニスタ」は、そのような、これからの新しい学びに役立ててほしいという願いをこめてスタートするシリーズです。創刊第1弾は『未来をつくるあなたへ』(中満泉)、『地震はなぜ起きる?』(鎌田浩毅)、『俳句部、はじめました』(神野紗希)、『地球温暖化を解決したい』(小西雅子)の4冊です。いずれの本も、単に情報を提供するだけでなく、また、一つの決まった答えに導くのではなく、読者が本を読みながら一緒に考えていけるような内容です。

このシリーズを創刊するきっかけとなったのは、全国の中学校の教員や司書、生徒の皆さんからの

生の声でした。岩波書店では40年以上にわたって「岩波ジュニア新書」を刊行してきました。ジュニア新書は10代向けの学習入門シリーズとして多くの中学・高校生に読まれています。私自身、長くジュニア新書の編集に携わっていることもあり、全国の中学校に足を運び、学校図書館を見学させていただきながら教員や司書の方々から中高生の読書についてお話を聞く機会が多くあります。

そのなかで、ジュニア新書の良さを生かしながら、より多くの中学生たちの〈学び〉や〈探究〉に役立つ本とはどのようなものか、たくさんのアイデアや意見をいただきました。これらの学校現場の声を受け止めて生まれたのが「ジュニスタ」です。

判型を大きく、図版を多く、ページ数を少なくするといった形態の工夫だけでなく、なによりも内容を充実させることに力を注いでいます。

創刊第2弾は『なぜ私たちは理系を選んだのか』(榎太一)、『地球以外に生命を宿す天体はあるのだろうか?』(佐々木貴教)、『サンゴは語る』(大久保奈弥)、以後、SDGs、スマホとSNS、英語、妖怪などなど、幅広いテーマの本を出していく予定です。

学校の授業や探究学習、学校図書館で積極的に活用していただき、自分の可能性を広げたい、新しい世界に触れてみたい、ものの見方や考え方を深めたい…、さまざま思いを抱きながら日々を過ごしている中学生が1歩を踏み出すための1冊にしてほしいと思っています。

(やまもと しんいち：岩波書店)

図書館は読書だけでなく、調べものもできるんです

星野 千鶴子

振り返ると2020年2月末、3月の年度末、これからどうなるのか、何もわからないまま4月を迎えました。この時期に異動された方は、さぞ、大変だったと思います。

私は前年と同じ学校で図書館司書として迎えた4月でしたが、1学年の国語担当の先生が2人とも新しくいらした先生で、10クラス編成の学年になりました。いつ生徒が来るか見えないまま、オリエンテーションの打ち合わせをしました。結果としては7月の期末が終わってからになりました。

また、2年生には調べ学習についてのオリエンテーションが出来たらいいなあ、と思っていましたが無理でした。そこで、今ある所蔵の本でコロナとかウイルスについて、どの程度調べられるのか、どのような手順で調べたらいいのかを模造紙にまとめて掲示しました。生徒が来た時に見てもらえるように、本も展示しました。

そして、どのようにテーマを見つけ、本を探すのかを小さな掲示物にしました。それから情報カードの使い方として、実際にわたしが情報カードを書いて、この中から何が必要かをテーマに合わせてしぼり込み、まとめて書くと良いというメモやワークシートも添えてみました。(写真・左)

SDGsの本

ゴールデンウィークが終わり、またとない時間もらったと思い、本校の所蔵の本はどんな本があるのか、1冊1冊開いてみたいと思い、SDGsについて、1つの目標につき何冊かのリストを作ってみようと思いました。これからたくさんSDGsの本が出版される前に、本校の所蔵を知っておくと良い

と思ったからです。そのリストを壁掛けホルダーに入れて、自由にとってもらえるように掲示しました。(写真・右)

そんな中、6月半ばからは生徒が学校に顔を出すようになりましたが、なかなか図書館を使ってもらう方向には向かわず、どうしたら使えるようになるのか、他校の司書さんや学校図書館協議会のガイドライン、公共図書館の様子などを参考に進めていきました。初めは学年ごとに日替わりで来る日を設定し、机に座ることが出来ません。それでも入口での消毒、机その他の消毒を条件に生徒を迎えることが出来ました。7月の期末テストが終わってから、ようやく1年生のオリエンテーションをしました。しかし図書館ではなく、教室で行いましたので、書架の配位置など「利用案内」の図で見てもらいました。大きな配置図を用意すれば良かったと、今は思っています。

SDGsのアイコンをつけて

そうして迎えた2学期も1年生には図書館に入っていいのか、どうなのか迷う、遠い所になってしまったようです。しかも2学期はSDGsを調べる学校が多かったように思います。本校も2年生が総合でSDGsを調べるという話がありましたが、タブレット端末で調べるので本は他校に貸しても良いということでした。私としては5月に作ったSDGsのリストを担当の先生お渡しし、NIE（「教育に新聞を」の英文字略）コーナーの



切りぬいた記事にSDGsの目標のアイコンをカラーでつけて本を添えて展示してみました。それを目にした生徒が、先生に「こんな展示がある」と伝えてくれたようで、先生も見に来てくれました。これからは切りぬきにSDGsのアイコンをつけて展示していこうと思いました。その後、2学年の学年日よりでどんなことを調べたのか知ることが出来ました。それは企業がSDGsについてどんな取り組みをしているのか、企業のホームページから調べてまとめたようです。そういう切り口もあるのか、と思いショップに置いてあるフリーペーパーも集めてみようと思いました。

そして、パワーポイントで発表するには画像が取り込めると良いとの事でしたので、本から画像を取り込む際の著作権の問題についても考える本を紹介できるようにしたいと思いました。

さて、3学期、今年度始まって以来のにぎわいです。本を借りた人が引けるおみくじのせいかとおもったのですが、それだけではなく緊急事態宣言が出たので、部活も出来ず、昼休みは10分間しかなく、外遊びも禁止、そこで「図書館に行こう！」ということになったらしいのです。ここはピンチをチャンスに昼休みや放課後に図書館に来て本を手にしてもらおう、しかも「朝読」の時間が時間割から消えているので、ならば「昼読」と、とにかく、本を手にしてもらおうと思いました。

クイズ形式の掲示物を

1年生のフロアに図書館があるのに、なぜか3年生が良く来てくれます。その1つのグループが、カウンターに置いてあった本のおまけの国旗カードで遊び出しました。見ていると、似たもの国旗を集めているのです。そこで、クイズ形式の掲示物にまとめてみました。少しでも「行ってみようかな」という雰囲気になってくれればうれしいです。国旗カードで遊んでいた生徒が“自分たちが図書館を作っている”というような気持ちになれたら良いと思いました。

ようやく、1年生も図書館に顔を出すようになり、予約もできますよ～、リクエストも受け付け

ますよ～とアピールしました。そして部活がないので放課後も本を返して借りていくという流れになってきました。この流れが消えてしまわないように、どんな本を紹介しようと頭を悩ませています。しかし、10年ほど前はケイタイ小説といって横書きだった本が縦書きになっていて、リクエストの中にはそういう本もあります。それでも自分がリクエストした本が図書館にある、という体験をして欲しいので、購入しました。生徒とコミュニケーションをとって生徒が何を求めているのか、司書という仕事の原点に戻って考えてみたいと思います。

自分に合いそうな本を選ぶ

この1年、「朝読」の時間はなくなりました。そして、生徒は学校・部活・学校行事・塾と忙しい中のスキマ時間を今はスマホが埋めているようです。また、ラインなどの短い文章は読めるけど、長い文章は嫌だということです（「ヤングアダルト世代にとっての図書館」宮崎健太郎講演録 学校図書館問題研究会福島支部発行）。それでも12月に1学年ごとの貸出数が1000冊を目指す、というキャンペーンをする事になり、1クラスごとに50分の読書の時間を作っていただきました。すると夏目漱石・森鴎外や芥川龍之介など教科書で見かける作家の本とともに、「この本、良く見つけたね」という本を見つけて借りて行きます。読めないのではなく、自分に合いそうな本を選ぶ時間がないということもあるのかと思いました。この事をふまえて先生方に積極的に図書館を利用していただけるように働きかけてみたいと思っています。

また、来年度は1人1台のタブレットが配布されるようですし、図書館とか本とかいうメディアが見えにくくなって来ているらしいので、そこを見えるようにするのが司書の仕事だと思います。春になって学年が上がっても図書館が生活の一部になりますように！祈りながら、ワクワクもしています。

(ほしの ちづこ：中学校図書館司書)

ブックトークの楽しさ

赤松 忍

コロナ禍での図書館利用

昨年は新型コロナウイルスの感染症対策のため、学校図書館でも利用時間や入館人数を制限したり、距離を取って席に座り本を読むなど、今までとは違う環境で運営をすることになりました。その中でも生徒達はお互い距離を取りつつ、おすすめの本を紹介しあったり、感想を言いあったりと、積極的に学校図書館や資料を利用してくれました。

今、勤務している中学校は、昼休み開館の利用にも積極的で、生徒からの予約やリクエストの受付もあり、上手に学校図書館を活用してくれている印象があります。生徒達に人気なのは、文庫の人気シリーズや、書店で話題になっている小説です。

まずはブックトークから

自由読書で学校図書館を利用する時、まず最初に学校司書が10分程度のブックトークを行います。生徒達はその後、本を選び読書を始めます。

ブックトークの内容は基本的には学校司書に任されていますが、季節や学習内容などを踏まえて、担当の先生と相談しながらテーマや紹介する本を決めています。

読書のために図書館を利用すると、どうしても自分の好きな作品を読むことが多くなります。そこでブックトークでは、あまり借りられることの少ない海外の文学と、社会科学や自然科学など主題の本を必ず紹介するようにしています。ブックトークの後は、気になった本がすぐ手に取れるよう、表紙を見せて展示します。全ての本とはいきませんが、何冊かは手に取ってパラパラと見てくれたり、自席に持って行って読み、続きが気になり授業後に借りてくれる生徒もいます。そんな時には「紹介した甲斐があったな」「次のブックトークの時にも読みたくなるように工夫しよう」とやる気が出てきます。

「謎解きのたのしみ」というテーマでは『11番目の取引』（アリッサ・ホリングスワーズ作、す

ずき出版）を紹介しました。アフガニスタンに住む少年サミは、おじいさんと共にアメリカに移住します。地下鉄でおじいさんが大切にしていたルバーブという伝統楽器を盗まれ、楽器屋に転売されてしまいます。値段は700ドル。サミはおじいさんのためルバーブを買い戻そうと、物々交換でお金を作ることを計画します。アメリカで友達作りに消極的なサミの心情や、アフガニスタンでの体験、ルバーブの行方など気になる謎がたくさん出てくる読み応えのある物語です。興味を持った一年生が早速借りてくれました。

本を入りに

緊急事態宣言で出かけられない中、読書で旅行を楽しもうと「goto 読書」と題して世界が舞台の本も紹介しました。『11番目の取引』と同じように、内戦や平和がテーマの『ZENOBIA』（モーテン・デュアー文、ラース・ホーネマン絵、荒木美弥子訳、サウザンブックス社）は、クラウドファンディングで企画、出版されたグラフィックノベルです。主人公のアミーナの住む村が空襲の被害に合い両親も戻らなくなったため、おじさんと戦火を逃れボートで国を脱出しようとしています。アミーナはシリアの昔の王女ゼノビアが強くあきらめずに乗り切ったことを思い出し、自分も不安と戦おうとします。楽しいお話ではありませんが、今の世界を知って欲しいと紹介した本が、生徒の手に取られ、読まれる様子を見て、思い切ってブックトークに加えてよかったですと思いました。

『お雑煮マニアックス』（粕谷浩子 [著]、プレジデント社）は、お雑煮の魅力に取りつかれ日本全国でお雑煮について聞き込み、情報収集をしている著者によるお雑煮本です。都道府県ごとに代表的なお雑煮の写真と簡単なレシピ、地元の方に聞いたその土地のお雑煮豆知識を知ることができます。自分がかく当たり前に毎年食べていたお雑煮が、地域特有のものであることを知って、とて

も驚き、ぜひ伝えたいと思って紹介した本です。

時にはクイズも混ぜてみます。『統計からみえてくる世界の未来』（井田仁康監修、学研プラス）は、様々なデータを読み取りながら、人口や生活、産業などいろいろなテーマについて未来を予測してみようという本です。項目ごとに統計データを元にした3択のクイズを解きながら、その数字のなぜを知り、未来について考えられるよう解説されています。その中から「インターネットやIT技術の未来はどうなる？」のクイズを出しました。2022年に全世界の人々がモバイル端末でやりとりするデータ量が問題です。答えを聞いた生徒達は量が膨大なことにざわざわと話し始めます。自由読書時には何人かで本

を囲み読みながら話し合っていました。借りてくれた生徒は「この本面白かったです」と返却時に感想を伝えてくれました。この本を入口に、世界や未来について興味を持ってくれるといいなと思います。

*

たとえ短時間でも生徒達の前で話すのは、とても緊張します。アドリブなどは程遠く、決めた内容を伝えるだけで精一杯です。そんな拙いブックトークをきちんと座って真面目に聞いてくれる生徒達のために、これからも工夫を重ね、知らない世界と出会ったり、本を読む楽しさが届けられるように、続けていきたいと思っています。

(あかまつ しのぶ：中学校図書館司書)

DMがたろく

伝記
世界の思想家から学ぶ
未来を生きる道しるべ
好評
道徳の学習教材、調べ学習に
最適の**新シリーズ!!**



全5巻/揃え価格 本体 10,000 円+税
セット ISBN 978-4-389-50107-5
分売価格：各巻 本体 2,000 円+税
A5判 各 152 頁



清水書院

わたしたちの暮らしは**環境問題**とつながっている!
地球の未来を考える SDGs ビジュアル絵本
**気温が1度上がると、
どうなるの?** -気候変動のしくみ-

監修 **竹内 薫** サイエンス作家 オールカラー
シュライバー 文 マリアン 絵 松永美穂 訳



カラー図解で楽しくわかる

定価2090 円
(本体1900円+税)
ISBN 978-4-86706-017-9

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-6
☎ 03-3239-7671 Fax.03-3239-7622 (税込)

西村書店

姉妹編
令和のマンガ
万葉の世界と梅花の宴
上野 誠著 花村えい子絵
AB判 カラー 総ルビ
32頁 2800円

④ 万葉の旅うた
③ 万葉の恋うた
② 奈良の都
① 古代の都

万葉集から学ぼう! 日本の「こころ」と言葉*全4巻
上野 誠監修 花村えい子絵
AB判 カラー 総ルビ
32頁 各3000円

万葉集の「日本のこころと言葉」を、叙情ゆたかな絵とわかりやすい解説で味わう4冊。
小学生から楽しめる! 令和の絵本



ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税別

たとえことば辞典 新装版
中村 明 著
定価 1,980 円
(本体 1,800 円 + 税)
ISBN 978-4-490-10805-7

日常生活やビジネスシーン、文章中で使われる比喩表現を4400語収録。比喩的思考で誕生した“ことば”の本質と意味とのつながりを明らかにすることにより表現のしぐみを解説する。

和食ことわざ事典
永山久夫 著
定価 3,080 円
(本体 2,800 円 + 税)
ISBN 978-4-490-10850-7

“和食”をテーマに伝統的、歴史的なことわざに加え、食文化史の研究家である著者が、長年におわたって全国を回り取材を重ねて集めた、その土地に伝わることわざも多く掲載。

株式会社 東京堂出版 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-17
TEL 03-3233-3741 FAX 03-3233-3746